

第1回宇都宮市上下水道事業懇話会 議事録

■ 日 時

令和元年7月18日(木) 午後2時～午後4時

■ 会 場

宇都宮市上下水道局 5階会議室

■ 出席者

- ・ 委 員：太田正委員，齊木真理子委員，櫻井誠委員，神宮祥臣委員，
寺島玄委員，野澤克子委員，三宅徹治委員，山岡暁委員（50音順）
- ・ 局 側：上下水道事業管理者，経営担当次長，技術担当次長，経営企画課長，
経営担当主幹，企業総務課長，サービスセンター所長，
工事受付センター副所長，水道管理課長，水道建設課長，
下水道管理課長，下水道建設課長，生活排水課長，
技術監理室長，事務局職員

■ 傍聴者数

2名（いずれも記者）

■ 会議経過

- 1 開 会
- 2 管理者あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 座長の互選について
 - ・ 委員の互選により，太田正委員を座長に選出。
- 5 職務代理者の指名について
 - ・ 座長から，室恵子委員を職務代理者に指名。
- 6 会議の公開について
 - ・ 本懇話会を原則公開にすることを決定。

7 懇 話

- (1) 「第2次宇都宮市上下水道基本計画」について
- (2) 「令和元年度上下水道局の経営方針」について
- (3) 「広報広聴事業の取組」について

事務局より、資料に基づき一括説明。

F 委員： アセットマネジメントについて、宇都宮市はどのようなことを目的としているのか。特に宇都宮らしさがあるようであれば、ご紹介頂きたい。

事務局： 経営資源となる管路や施設、資金、人材の3点のバランスを取り、最適なサービスを市民に提供することを目的としている。

座長： 施設や管路に耐用年数があり、将来世代に引き継ぐため、更新や耐震化をしていくが、築造・埋蔵のピークが高度経済成長期に集中しており、対応時期も集中してしまうため、なるべく負担が分散するように優先順位を定めたり、資金や人材のバランスをとったりするもの。宇都宮市だけでなく全国的な動きでもある。先ほどの説明にコンパクトシティの紹介もあったが、宇都宮市においては LRT を基軸に事業が展開されるため、その動きに連動させたバランスのとり方になると思う。

G 委員： 水再生センターという名称は、従来の下水処理場以上の意味合いや機能はあるのか。

事務局： 法的な名称は下水道終末処理場だが、平成19年に水再生センターに名称変更した。下水を使える水に戻すだけでなく、下水汚泥の資源利用や下水の熱利用など、資源の宝庫という側面から、単なる廃棄物処理のイメージから新しいものを生み出すイメージの水再生センターという名称を使用している。

G 委員： 管路耐震化について、地震発生時に接合部の位置や材質による考え方や対策について教えて頂きたい。

事務局： 上水道について、ダクタイル管を使用しており、耐震化されていないものについては接合部が揺れに対しては弱いですが、現在更新するものは耐震管を使用しており、接合部も耐震性があり、離脱防止機能も付いている。調査については、これまで布設したデータを基に、掘削調査も腐食等の影響も鑑みて調査している。

G 委員： 材質についてはダクタイル管ということだが、プラスチック管などは使用していないのか。

事務局： 口径にもよる。50mmの管であれば、ねじで止めていたものを電気で溶かし融着させ、地震にも対応できるハイパーポリエチレン管を使用している。

事務局： 阪神淡路大震災を契機に、耐震基準の見直された。管がつぶれてしまったり、マンホールから管が外れてしまったりした被害が発生したため、それらを防ぐための取組が実施されている。まずマンホールから管が外れることを防ぐため、ゴム製のものを接合部に使用し、地震に対応できるようにしている。また、管がつぶれないようにするためには内側から樹脂製のものを貼り強度を上げ、耐震性を持たせるようにしている。

G 委員： 下水道はヒューム管になるということか。

事務局： その通りである。

D 委員： 人口減少で収益が減っていくとあったが、売電等、事業拡張の今後の見通しを伺いたい。

事務局： 水道では太陽光発電、小水力発電を実施している。太陽光発電は浄水場の電源に利用しており、小水力発電は東京電力へ年間約600万円売電している。

事務局： 下水道は下水汚泥から生じるメタンガスで発電し、売電している。規模の小さい処理場であると採算性を確保することが難しいため、主となる川田水再生センターのみで実施しており、拡大は検討していない。

事務局： 専門用語が多いため、ここで一旦解説させていただきたい。

～資料6、パンフレットに基づき事務局より説明～

座長： 三宅委員より事前にご意見頂いた事業提案の紹介を頂きたい。

F 委員： 1点目は、街中水道水を市役所庁舎の入り口あたりに設置を提案する。以前市民へ向けたアンケート調査で、水道水を飲用しない市民が約3割いるという結果に驚いた。もっと宇都宮の水のおいしさをPRするべきだと思っていた。

2年前に東京に東京国際フォーラムという人の出入りの多いビルに、東京水という水飲み場が設置されており、その場で飲んだりペットボトルで持ち帰ることもできるようになっており、非常に美味しかった。東京水のおいしさをPRする役割を果たしていた。もったいない市民会議委員を務めており、市民アンケート調査を実施する機会があり、その結果、マイストローを持参する人はまだ少ないが、マイボトルを持参している人は多くなってきている時代背景もあるため、広報活動の一環として、街の中に宇都宮のおいしい水を飲むことができるスポットを設置するという提案をしたい。

2点目は、SDGs との繋がりでのアピールをしたい。宇都宮市の事業計画

自体も、SDGs にリンクさせ、世界的なスケールに合致していることをアピールするべきだと思う。

座長： その他にご意見のある委員は、ご発言いただきたい。

G 委員： 水道水の品質管理項目について、ペットボトルのミネラルウォーターよりも、水道水の方が多いため、水道水の方が安全ではないかと思うが、見解を伺いたい。

事務局： 検査体制は、国の認証を受け実施している。おいしい水32選に選ばれたのは昭和60年と、かなり昔のことであり、これを利用した宣伝は最近あまりしていなかったところである。スポットも現在デザイン化はされていないが、本庁舎でも設置しているところだが、三宅委員の意見も検討していきたい。

F 委員： 宇都宮の水に自信を持ってもらいたい。意志を持って広報活動をしてもらいたい。

事務局： 検査項目については、99項目の検査をおこなっている。ペットボトル水は食品衛生法による約20～30項目で検査をしている。項目数でいえば、水道水の方がペットボトル水よりも多い。

事務局： SDGs について、市長部局においても具体的な取組を今後展開するため、局も本庁の取組に合わせての展開を検討したい。

座長： 今まで取り上げたことはなかったか。

事務局： ない。

座長： 水飲み場について、公園や運動場をはじめ、公衆栓は現状市内にたくさんある。市民生活にとって不可欠なサービスは実施している側面もある。

F 委員： 見せ方を工夫してほしい。

B 委員： お客様満足度の数値について、目標値はクリアすれば更に翌年度の目標値が上がると思うが、平成28年から平成34年の間は、実数値は上がっていると考えてよいのか。また、市民意識調査の結果は、目標値とリンクするものがあるのか。最後に、イメージアップ事業について、いつから始まるのか。

事務局： 目標値については、増減はあるものの、5年間のうちに達成できるよう設定している。2つ目の意識調査について、市長部局の広報関係の課の調査であり、局の方で質問事項を指定して調査している。3つ目のイメージアップ事業については、現在委託契約を経て制作中である。

座長： 具体的な内容を伺うことは可能か。

事務局： 具体的な内容については検討中であり、現時点での公表は困難である。

B 委員： 完成時期の目途を伺いたい。

事務局： 9月から10月頃を予定している。

D 委員： イメージアップ事業のターゲットを10～20代にした理由を伺いたい。

事務局： 今後家庭を持ち水道・下水道を使用し、料金をお支払いいただく層をターゲットにした。

C 委員： 他の地域の方からすると、「宇都宮にはおいしいものが多いね」と言われることもあるのに、市民性のせいかな、あまり市民がPRしない風潮があると思う。おいしい水32選に選ばれたという看板を、公園の水飲み場に設置するなどしてPRするのもいいと思う。水道事業の民営化についてニュースで取り上げられていたが、宇都宮ではどのような検討をしているのか。

事務局： 水のおいしさについて改めて広くPRする手法を検討していきたい。

座長： 今あるものを有効活用してPRすることはいいことだと思う。

事務局： コンセッション方式による民営化については、民間活力の導入としては一つの方策となると思うが、本市においては第2次宇都宮市上下水道基本計画に基づいて運営するため検討していない。

事務局： PR方法について、ご意見を前向きに検討したい。

A 委員： 泉水は近所でも認知度が低い。本当においしい水であることをPRするために、泉水をスーパーで買えるようにしたらどうか。

事務局： 広く販売することも検討したが、生産と販売を見合うためには単価設定が合わないため、なかなか一般の販売に至っていない。

座長： ほとんどの自治体が製作しているが、一般流通している自治体はごくわずか。利益を得るものというよりは、PRの一環として製作していることが多い。市民意識調査の満足度について、もっと高くてもよいのではないかと個人的には思う。

8 その他

第2回懇話会開催日程 令和元年10月17日（木）開催予定

9 閉会